

区 分	専門科目－経営ビジネス科目	担当教員	井上 照章			
授業科目	マーケティング論 A					
英 訳	Marketing Strategy A					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の概要】</b> 巨額の資金を投入し開発した商品が売れない、一方思いがけない商品がヒットする。何故？ 企業が市場で成功するためのマーケティングの基礎を学ぶ。						
<b>【授業の目的】</b> 市場のメカニズムを習得すること。						
<b>【到達目標】</b> マーケティングの基礎を学習し、市場で成功していくための切り口とその対応策を理解する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。						
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 : マーケティングとは？ 誕生と変遷 第 2 回 : 基本的なマーケティング概念 第 3 回 : マッカーシーの4 P政策 第 4 回 : SWOT分析 第 5 回 : 戦略ドメイン 第 6 回 : 戦略的マーケティング策定フロー 第 7 回 : マーケティング戦略の策定フロー 第 8 回 : 戦略的マーケティングの領域 第 9 回 : 競争地位戦略 第 10 回 : ソーシャルマーケティング 第 11 回 : 環境対応としての戦略的マーケティング 第 12 回 : リーダー企業の定石戦略 第 13 回 : 市場細分化の必要性と方法 第 14 回 : 消費者行動分析 第 15 回 : まとめ						
<b>【教科書】</b> なし						
<b>【参考書】</b> なし						
<b>【成績評価基準】</b> 期末試験 (80%)、平常点 (20%) で評価する。						
<b>【メッセージ】</b> 日々報道される商品市場動向に注目し、「何が、どうしてそうなのか？」等の興味をもつことが大切です。						

区 分	専門科目ー経営ビジネス科目	担当教員	井上 照章			
授業科目	マーケティング論 B					
英 訳	Marketing Strategy B					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 市場で成功するためのマーケティング・ミックス 4P (Product:製品, Price:価格, Place:チャネル, Promotion:販促) につき学びます						
【授業の目的】 市場で浮沈を決める要因は何か? 具体例を検証しながらその理由・背景と対応策を理解する。						
【到達目標】 マーケティング・ミックスの具体的手法を学習し、市場で成功するための方策を理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。						
【授業計画】 第 1 回 : 製品の定義、商品の分類 第 2 回 : 製品ライフサイクル 第 3 回 : 新製品開発プロセス 第 4 回 : 計画的陳腐化政策 第 5 回 : ブランド基本戦略 第 6 回 : ナショナル・ブランド (NB) とプライベート・ブランド (PB) 第 7 回 : 価格設定の基本方針 第 8 回 : 新製品の価格設定 第 9 回 : 製品ミックスを考慮した価格設定 第 10 回 : 割引による価格対応 第 11 回 : 心理面を考慮した価格戦略 第 12 回 : プル戦略とプッシュ戦略 第 13 回 : チャネル戦略 第 14 回 : 広告 第 15 回 : まとめ						
【教科書】 なし						
【参考書】 なし						
【成績評価基準】 期末試験 (80%)、平常点 (20%) で評価する。						
【メッセージ】 日々報道される商品市場動向に注目し、「何が、どうしてそうなのか?」等の興味をもつことが大切です。						

区 分	専門科目－経営ビジネス科目	担当教員	竹元 雅彦			
授業科目	簿記 I					
英 訳	BOOK KEEPING I					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
<p>【授業の概要】簿記は、現金の収入・支出や商品の仕入・販売など、さまざまな企業活動を正しく記録・計算・整理し、その結果を報告するための技術です。本講義では、複式簿記の基礎である商業簿記の基本原則を中心に記録するためのルールの説明と基本的な仕訳を理解します。</p>						
<p>【授業の目的】 簿記の基本原則(簿記の意味・目的・種類)の理解</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日商簿記検定3級合格レベルの簿記の基本原則の理解を目指す。仕訳・転記ができる。</li> </ul>						
<p>【準備学習(予習・復習)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること</li> <li>・テキスト、配付プリントを整理し内容を理解すること</li> </ul>						
<p>【授業計画】</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 簿記の基礎</p> <p>第 3 回 日常の手続き(I)</p> <p>第 4 回 日常の手続き(II)</p> <p>第 5 回 日常の手続きのまとめと振り返り</p> <p>第 6 回 商品売買(I)</p> <p>第 7 回 商品売買(II)</p> <p>第 8 回 理解確認テスト(I)</p> <p>第 9 回 現金</p> <p>第 10 回 当座預金</p> <p>第 11 回 小口現金</p> <p>第 12 回 理解確認テスト(II)</p> <p>第 13 回 手形(I)</p> <p>第 14 回 手形(II)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>						
<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合格テキスト 日商簿記3級 Ver.8.0 (よくわかる簿記シリーズ) TAC簿記検定講座 (著)</li> </ul>						
<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 8.0 (よくわかる簿記シリーズ) TAC簿記検定講座 (著)</li> </ul>						
<p>【成績評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験(100%)による</li> </ul>						
<p>【メッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記検定3級を受験するために、つづけて簿記IIを受講すること。</li> </ul>						

区 分	専門科目－経営ビジネス科目	担当教員	竹元 雅彦			
授業科目	簿記 II					
英 訳	BOOK KEEPING II					
配当年次	2 年次	後 期	必選別	選択	単位数	2 単位
<p>【授業の概要】 簿記は、現金の収入・支出や商品の仕入・販売など、さまざまな企業活動を正しく記録・計算・整理し、その結果を報告するための技術です。本講義では、複式簿記の基礎である商業簿記の基本原理を中心に記録するためのルールの説明と基本的な仕訳を理解します。</p>						
<p>【授業の目的】 簿記の基本原理(簿記の意味・目的・種類)の理解</p>						
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日商簿記検定3級合格レベルの簿記の基本原理の理解を目指す。財務諸表（P/L、B/S）が作成できる。</li> </ul>						
<p>【準備学習(予習・復習)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること</li> <li>・テキスト、配付プリントを整理し内容を理解すること</li> </ul>						
<p>【授業計画】</p> <p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 仕訳と転記</p> <p>第 3 回 その他の期中取引(I)</p> <p>第 4 回 その他の期中取引(II)</p> <p>第 5 回 その他の期中取引(III)</p> <p>第 6 回 理解確認テスト</p> <p>第 7 回 試算表の作成(I)</p> <p>第 8 回 試算表の作成(II)</p> <p>第 9 回 決算の手続き (I)</p> <p>第 10 回 決算の手続き (II)</p> <p>第 11 回 決算の手続き (III)</p> <p>第 12 回 決算の手続き (IV)</p> <p>第 13 回 決算の手続き (V)</p> <p>第 14 回 決算の手続き (VI)</p> <p>第 15 回 伝票式会計</p>						
<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合格テキスト 日商簿記3級 Ver.8.0 (よくわかる簿記シリーズ) TAC簿記検定講座 (著)</li> </ul>						
<p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合格トレーニング 日商簿記3級 Ver. 8.0 (よくわかる簿記シリーズ) TAC簿記検定講座 (著)</li> </ul>						
<p>【成績評価基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験(100%)による</li> </ul>						
<p>【メッセージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記検定3級を受験するために、事前に簿記Iを受講すること。</li> </ul>						

区 分	専門科目—経営ビジネス科目	担当教員	松本 俊雄			
授業科目	産業社会学					
英 訳	Industrial Sociology					
配当年次	2 年次	前期	必選別	選択	単位数	2 単位
<b>【授業の概要】</b> 産業組織（主として企業）の社会にけるポジショニングを最初に概観し、企業を取り巻く社会環境、働く人の環境を学ぶ。又、企業が果たすべき役割、社会的責任についても言及する。 これからの企業のあるべき姿についても、グループディスカッション等を通じて、知の共有化を図る。 ビデオ等の視聴覚教材を用い、理解の促進を図る。						
<b>【授業の目的】</b> 産業組織が抱える現代社会における課題を、社会的側面から理解する。 産業組織の中で自ら考え、行動する力を養成する。						
<b>【到達目標】</b> ① 産業社会を取り巻く社会環境を理解し、求められている役割を理解する。 ② 産業社会が抱える諸問題を通して、産業社会の課題を理解する。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 前回の授業内容をプリント資料に基づき、よく理解しておくこと、不明点は質問すること。						
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 産業社会学とは 第 2 回 産業組織の位置付と社会関係 第 3 回 企業経営の企業目的 第 4 回 日本的経営の特質と変貌 第 5 回 労働環境の変化と雇用の多様化 第 6 回 日本人の労働観と若年者の就業 第 7 回 雇用の法的規制・権利 第 8 回 企業と人権 第 9 回 企業と男女共同参画社会 第 10 回 企業と労働組合 第 11 回 企業と情報社会 第 12 回 企業とグローバリゼーション 第 13 回 企業の社会的責任と企業倫理 第 14 回 企業の社会貢献 第 15 回 まとめ						
<b>【教科書】</b> プリント資料を配布する。						
<b>【参考書】</b> 授業中に紹介する。						
<b>【成績評価基準】</b> 期末試験（70%）、レポート（15%）、授業への取り組み（15%）で評価する。						
<b>【メッセージ】</b> 産業組織が抱えている社会的課題を理解することで、産業組織に対する洞察がより深まり、卒業後のキャリアを考える上で、役に立ちます。						

区 分	専門科目—経営ビジネス科目	担当教員	松本 俊雄			
授業科目	産業・組織心理学					
英 訳	Industrial and Organizational Psychology					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の概要】</b> 産業組織（主として企業）の中で働く人々が直面する諸問題を、組織を構成する人の心理的側面に焦点を当てて、概説する。組織管理の成立、人の管理、集団の動き、キャリア支援などを、理論と具体例の両面から学ぶ。随時、各種心理テストの実施、ビデオ等の視覚教材、グループワークを中心とした演習を取り入れ、体験型学習で理解の促進を図る。						
<b>【授業の目的】</b> 産業組織の中で働く上で、人にかかわる問題のメカニズムを個人・集団の両面から概観し、組織の中で求められる能力、心理的側面に対する理解を深める。						
<b>【到達目標】</b> ① 産業組織中の個人と集団の関係を学び、組織で必要とされるスキル・能力を理解する。 ② 今後の組織における課題を学び、効果的な解決方法を学ぶ。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 前回の授業内容をプリント資料に基づき、良く理解しておくこと、不明点は質問すること。						
<b>【授業計画】</b> 第 1 回 産業・組織心理学とは 第 2 回 仕事への動機づけ 第 3 回 人事評価の実際 第 4 回 アセスメント 第 5 回 成果と報酬 第 6 回 キャリア開発 第 7 回 リーダーシップ 第 8 回 チームワーク 第 9 回 職場集団のコミュニケーション 第 10 回 職場集団の意思決定 第 11 回 職場集団のダイナミックス 第 12 回 組織文化と組織開発 第 13 回 小集団活動 第 14 回 ストレスとメンタルヘルス 第 15 回 まとめ						
<b>【教科書】</b> プリント資料を配布する。						
<b>【参考書】</b> 授業中に紹介する。						
<b>【成績評価基準】</b> 期末試験（70%）、レポート（15%）、授業への取り組み（15%）で評価する。						
<b>【メッセージ】</b> 企業における人事・労務・人材育成に経験に基づき、組織の中での人にかかわる諸問題について、わかりやすい授業をします。働く上で、有効な知識を得ることが出来ます。						

区 分	専門科目—経営ビジネス科目	担当教員	竹元 雅彦			
授業科目	会計学					
英 訳	business accounting					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】"会計とは、企業の経営活動を会計帳簿に記録し、株主や債権者等の利害関係者に対してその財政状態や経営成績を、財務諸表を通じて報告することをいいます。本講座では、財務会計の基礎的概念と技法の理解を通じて、企業経営の意思決定に役立つ会計の本質を学びます。						
【授業の目的】 簿記の基本原則(簿記の意味・目的・種類)の理解						
【到達目標】 ・財務諸表 (P/L、B/S、C/S) の仕組みについて学習し、その役割がわかる。						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・テキスト、配付プリントを整理し内容を理解すること						
【授業計画】 第 1回 オリエンテーション 会計学を学ぶ視点 第 2回 財務諸表の役割と体系 第 3回 貸借対照表の理解 第 4回 資産 (固定資産・流動資産) 第 5回 負債 (固定負債・流動負債) 純資産 第 6回 損益計算書の理解 第 7回 5段階の利益 (I) 第 8回 5段階の利益 (II) 第 9回 キャッシュフロー計算書の理解 第10回 直接法と間接法 第11回 理解確認テスト 第12回 財務諸表分析の基本 (I) 第13回 財務諸表分析の基本 (II) 第14回 財務諸表分析の基本 (III) 第15回 まとめ						
【教科書】 ・「ビジネス会計検定試験公式テキスト3級」中央経済社						
【参考書】						
【成績評価基準】 ・期末試験(100%)による						
【メッセージ】 ・聞きなれない専門用語が並んでいますが、実際の企業の事例を使いながら分かりやすく学べます。簿記論と合わせて受講してください。						

区 分	専門科目—経営ビジネス科目	担当教員	竹元 雅彦			
授業科目	簿記会計論					
英 訳	financial accounting					
配当年次	2年次	後 期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 講義では、ビジネスで必要な会計知識である「決算書(財務諸表)の読み方」と「管理会計の基礎」について、それらの基本となる簿記(財務諸表の作り方)の観点から学習します。						
【授業の目的】 ・会計の仕組みを理解するために、簿記の構造を理解する。						
【到達目標】 ・簿記の基本を修得し、企業会計の役割が理解できる。						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・テキスト、配付プリントを整理し内容を理解すること						
【授業計画】 第 1回 講義の進め方 第 2回 簿記会計の知識はビジネスでどのように役立つか？ 第 3回 簿記の流れ I 第 4回 簿記の流れ II 第 5回 会社が行う実際の取引 第 6回 決算整理 第 7回 財務諸表の仕組み 損益計算書 第 8回 財務諸表の仕組み 貸借対照表 第 9回 財務諸表の仕組み キャッシュフロー計算書 第10回 会計原則 第11回 財務分析の基礎 I 第12回 財務分析の基礎 II 第13回 管理会計の基礎 固定費と変動費 第14回 管理会計の基礎 損益分岐点 (BEP) 第15回 まとめ						
【教科書】 ・図解キチンとわかる！決算書—決算数字の成り立ちから財務会計・管理会計の基本まで— 滝沢みなみTAC出版						
【参考書】						
【成績評価基準】 ・期末試験(100%)による						
【メッセージ】 ・聞きなれない専門用語が並んでいますが、実際の企業の事例を使いながら分かりやすく学べます。「簿記」と合わせて受講ください。						

区 分	専門科目－経営ビジネス科目	担当教員	井上 照章			
授業科目	国際ビジネス文化論					
英 訳	International Business Culture					
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 教員の海外体験（アメリカ、インドネシアの駐在）及び在日外資系（アメリカ、ドイツ）勤務をベースに国際ビジネスの実態を解説する。						
【授業の目的】 国際社会のなかで日本人の働き方を学ぶこと。						
【到達目標】 海外のビジネス文化と貿易の仕組みを学習し、国際ビジネスを成功させるためのキーポイントを理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。						
【授業計画】 第 1 回 : 概観 世界貿易 第 2 回 : 3つのキーポイント～海外ビジネス成功のために～ 第 3 回 : アメリカのビジネス文化 第 4 回 : インドネシアのビジネス文化 第 5 回 : ドイツのビジネス文化 第 6 回 : 貿易収支と経済収支 第 7 回 : 円安と円高 第 8 回 : 貿易に関する国内法規 第 9 回 : 輸出貿易管理 第 10 回 : 輸入貿易管理 第 11 回 : 貿易形態～直接貿易から逆輸入まで～ 第 12 回 : 貿易と環境 第 13 回 : TPPとは？ 第 14 回 : 経済連携の枠組み～アジア太平洋～ 第 15 回 : まとめ						
【教科書】 なし						
【参考書】 なし						
【成績評価基準】 期末試験（80%）、平常点（20%）で評価する。						
【メッセージ】 日々報道される海外とのビジネス情報に興味をもつことが大切です。						

区 分	専門科目－経営ビジネス科目	担当教員	相田 美穂			
授業科目	ファッション論A					
英 訳	Theory of Fashion A					
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の概要】</b> ファッションは「個性の表現」として理解されているかもしれないけれども、その「個性」とは、誰のどのような「個性」といえるのでしょうか。講義では、サブカルチャーに関連するファッションを事例として用いながら、ファッションを、社会のあり方との結びつきからとらえることを通じて、ファッションが私たちにとって持つ意味を考えていきます。						
<b>【授業の目的】</b> サブカルチャーを事例としたファッションと社会のあり方との結びつきを、ファッションをめぐる議論を通じて理解すること。						
<b>【到達目標】</b> 講義で提示するファッションをめぐる議論を通じて、私たちのファッションと社会との関わりを考えることができる。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 講義中に指示する文献や資料は、あらかじめ読んでおく。 講義で触れる議論や概念について、不明な点を整理し関連する文献にあたっておく。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 ガイダンス：講義の進め方について 第 2回 おたくサブカルチャーでのファッション①：おたくイメージ 第 3回 おたくサブカルチャーでのファッション②：おたくファッション 第 4回 おたくサブカルチャーでのファッション③：変化するおたくイメージ 第 5回 ファッションと社会①：西洋社会とファッション 第 6回 ファッションと社会②：ファッション誌の登場 第 7回 社会・経済とファッション①：階級 第 8回 社会・経済とファッション②：模倣 第 9回 文化とファッション①：慣習 第10回 文化とファッション②：モードのサイクル 第11回 文化とファッション③：アンチ・ファッションとヒッピー の出現 第12回 社会集団とファッション①：若者の登場 第13回 社会集団とファッション②：流行のメカニズム 第14回 社会集団とファッション③：パーソナリティとファッション 第15回 まとめ：サブカルチャーとファッション						
<b>【教科書】</b> なし						
<b>【参考書】</b> 講義時に適宜指示します。						
<b>【成績評価基準】</b> 期末レポート (50%)、講義へのとりくみ (20%)、課題提出 (30%) を、総合的に評価します。						
<b>【メッセージ】</b> 講義では、映像などの視聴覚資料を使用します。講義内容は履修者の理解に合わせて変更する場合があります。						

区 分	専門科目－経営ビジネス科目	担当教員	相田 美穂			
授業科目	ファッション論B					
英 訳	Theory of Fashion B					
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の概要】</b> なぜ、私たちは「人は外見で判断される／人は人を外見で判断する」と考えるのだろうか。自分自身がファッションに関心がないと自認していても、人は外見から自分を「何者」かとして捉えたと考えるのはなぜだろうか。講義では、ファッションが持つ「機能」を、私たちの社会での「自己」との関連から考えます。						
<b>【授業の目的】</b> ファッションが社会階級と一致する公的なものから私的なものに変化したという、西洋でのファッションの歴史をふまえながら、ファッションのもつ「機能」と「自己」との関連をとらえていきます。						
<b>【到達目標】</b> 身近なファッションの「機能」について、自分が所属する社会にひきつけて説明することができる。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 講義中に指示する文献や資料は、あらかじめ読んでおく。 講義で触れる議論や概念について、不明な点を整理し関連する文献にあたっておく。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 講義ガイダンス 第 2回 社会階級からみるファッション①：社会階級とファッションの一致 第 3回 社会階級からみるファッション②：ファッションの画一化 第 4回 社会階級からみるファッション③：階層の見せつけ・模倣 第 5回 イメージが有効な社会のファッション①：模倣のモデルとしてのオートクチュール 第 6回 イメージが有効な社会のファッション②：模倣のモデルを伝達するメディア 第 7回 イメージが有効な社会のファッション③：個性の表象としての外見 第 8回 前半まとめと質疑応答 第 9回 個性を意味するファッション①：自己と社会を媒介するファッション 第 10回 個性を意味するファッション②：「コード」という考え方 第 11回 個性を意味するファッション③：ファッション誌にみる「コード」の種類 第 12回 ファッションのコード①：乗れるコード／乗れないコード 第 13回 ファッションのコード②：分かる人にわかる時代 第 14回 ファッションのコード③：自分だけがわかる時代 第 15回 まとめと質疑応答						
<b>【教科書】</b> なし						
<b>【参考書】</b> 講義時に適宜指示します。						
<b>【成績評価基準】</b> 期末レポート (50%)、講義へのとりくみ (20%)、課題提出 (30%) を、総合的に評価します。						
<b>【メッセージ】</b> 講義では、映像などの視聴覚資料を使用します。講義内容は履修者の理解に合わせて変更する場合があります。						

区 分	専門科目－経営ビジネス科目	担当教員	大塚 厚二			
授業科目	情報ビジネス概論					
英 訳	Introduction to Information Business					
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
<b>【授業の概要】</b> インターネットサービスの例について教科書をもとに教える。無料を原則とするインターネットで、どのように金を儲けているかを事例で教える。						
<b>【授業の目的】</b> インターネットに展開された経営と技術の全体像を理解するための授業を講義形式で行う。目標は、ネットでの販売・サービスを中心に、リアル(実際の店舗や流通網など)とネットとの組み合わせによる販売・サービスを含むビジネスについて事例研究を通じて理解してもらい、将来の進路での参考にしてもらうことである。						
<b>【到達目標】</b> インターネットサービスを提供する側の視点を獲得することが目標となる。利用する側から見えても、提供する側はいろいろな工夫をして努力している。その工夫や努力が見えるようになると、社会で活躍できるようになる。						
<b>【準備学習(予習・復習)】</b> 事例を示すので、成功した理由について、失敗した理由について、自分で考えて欲しい。授業での説明を聞いて、自分の考えを深めてほしい。						
<b>【授業計画】</b> 第 1回 オリエンテーションと導入 第 2回 インターネットの進展 第 3回 情報ビジネスの黎明期 第 4回 情報ビジネスの現状 第 5回 BtoC ビジネス 第 6回 ポータルサイト・ネットショップ 第 7回 インターネットモール・ネットオークション 第 8回 ブログ・SNS・コミュニティ機能 第 9回 経営理論から見た BtoC、経営手法 第 10回 BtoC ビジネスの事例 第 11回 e マーケティングと購買行動のモデル 第 12回 SEM/検索連動型広告/コンテンツ連動型広告 第 13回 クリック&モルタル、マルチチャンネル販売、 第 14回 クリック&モルタルの分類 第 15回 e ビジネス/e コマースで使われる技術						
<b>【教科書】</b> eビジネスの教科書(著者名:幡鎌博、出版社名:創成社)						
<b>【参考書】</b> 教科書に在る事例のリンクは授業支援サイトに載せる。						
<b>【成績評価基準】</b> 2回のレポート(40%)、期末試験(60%)						
<b>【メッセージ】</b> お金の儲けるだけの企業は、潰れる。他方、お金を儲けない集団もすぐに潰れる。実際のビジネスはこの中間で動いているので、社会人として成長するために中間が見えるようになってほしい。						